



学校だより 年末臨時号

令和4年12月23日

杉並区立済美養護学校

校長 伴 比佐志

<http://www.suginami-school.ed.jp/seibiyougo/>

「年の瀬が押し迫る」

校長 伴 比佐志

「年の瀬が押し迫ってまいりました。」ニュース等でこの時期になると、よく耳にするフレーズです。

「年の瀬」の「瀬」は、流れが急で速い川の様子を示した言葉で、年末の忙しく慌ただしく時間が過ぎていく様を例えた表現です。

江戸時代には、商品を買ったり外食をしたりした際に、その代金を後払いにする掛け売り（つけ払い）が一般的であり、その代金を、お盆と暮れにまとめて支払うことが多かったようです。この掛け売りの支払いは年内にきちんと清算して、無事に年を越せるかどうか勝負である年末を、皆、忙しく慌ただしく過ごしている様子を、年の瀬と呼ぶようになったことが由来といわれているそうです。（諸説あります。）

令和4年度は、新型コロナウイルスの校内感染拡大防止対策の徹底に始まり、児童・生徒のスクールバスの乗車時間の短縮、医療的ケアを必要としている児童・生徒のスクールバス登校の実現、児童・生徒数増加に伴う過密解消のための学部移転計画、新しい生活様式に応じた地域交流・副籍交流の再開、教職員の退職等に伴う指導体制の変更等について、PTA役員の皆様を始め、保護者の皆様に学校の課題等の現状をできるだけ明らかにし、その解決の方向性をお伝えしてきました。しかしながら、解決できたことや一部の解決にとどまったもの、継続して審議が続いているものがあり、この年の瀬に全てのことが清算できていないことは、紛れもない事実として受け止め、解決に向けて誠心誠意の努力を続けます。

乗車時間短縮のためのスクールバス増台計画、過密解消のための学部移転、新しい生活様式に中での副籍交流の進め方、退職した教員の後補充等、完全な解決に至っていない課題は、学校と杉並区教育委員会との連携により、3学期初めにはお示しできる方向で調整が進んでいることを御報告いたします。また、現在、保護者の皆様にお願ひしました教育評価のアンケートの集計を行っています。集計結果とその傾向の分析、新たに生まれた課題の解決の方向性については、保護者の皆様に年度末には確実に周知し、次年度の学校経営計画の方向性を併せてお示しできたらと考えています。新年度に向けて、保護者の皆様にとって、急なお願ひ事とならないよう、できるだけ早く情報をお伝えできるよう、努めてまいります。

大きな事故がなく、この日を迎えられたことは、なによりも児童・生徒の頑張り、それを支えてくださる保護者の皆様の、学校の教育活動への多大なる御理解と御協力によるものです。この場を借りまして、厚く御礼を申し上げます。「学校をよりよくしたい」・「学校に声にならない声を届けたい」という熱い思いのもと、時間を惜しまず御協力いただいたPTA役員の皆様のお力添えにも、深く感謝いたします。これからも、保護者の皆様との対話を大切にしたい学校経営を行っていく所存です。率直な御意見をいただけましたら、幸いに存じます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

区内では、新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症の罹患者が増えてきています。子どもたちも御家族の皆様も、年末を健康にお過ごしいただき、良いお年をお迎えください。

「やさしさ」と「ありがとう」が溢れてる

副校長 坪池 学

令和4年を漢字一文字で表すとしたら、皆様はどのような漢字を思い描きますか？翻って本校はといいますと・・・PTAを始め保護者の皆様からの多くの御協力とお力添えで支えていただきました。地域の方々に御理解をいただいた1年でした。そして児童・生徒は学校に来てくれました。一緒に生活をして、共に成長することができました。学校には、皆様からの「やさしさ」と「ありがとう」が溢れていました。ですから、本校の漢字は感謝の「謝」なのでしょう。来年も、皆様と共に歩みたいと切に願います。